

**次期総合計画・都市計画マスタープラン
橋本地区まちづくり会議報告書**

平成30年8月

橋本地区まちづくり会議

目 次

(課題と対応方策)

1	【重点】都市計画・都市整備	P 1
2	【重点】道路・交通	P 2
3	住環境・生活環境	P 3
4	自然・環境	P 4
5	産業・観光・商店街	P 5
6	安全・安心	P 6
7	健康・医療・福祉	P 7
8	教育・子育て	P 8
9	生涯学習・文化・スポーツ	P 8
10	地域コミュニティ	P 9
	会議経過	P 10

1 【重点】都市計画・都市整備

現状と課題

まちづくりを考える上で、橋本駅周辺と、相原二本松地区などの駅から離れた地域においては、地区の状況も異なります。このため、それぞれの個性を生かしたまちづくりを進める必要があります。

橋本駅周辺においては、交通結節点としての交通利便性を生かした商業・業務機能が集積していることに加え、リニア中央新幹線の整備計画も進行しています。これらを生かし、周辺都市からも人が集まり行き交うまちづくりを進めることが求められています。

また、相原高校や相模原協同病院が、相原二本松地区の職業能力開発総合大学校相模原キャンパス跡地へ移転する予定があり、こうした人の流れの変化を生かしたまちづくりを進めることが必要です。

さらに、地区内においては、近年、大規模な物流施設が建設され、施設に出入りする大型車による騒音や交通への影響なども課題となっています。

加えて、このまま少子高齢化、人口減少が進めば、社会の活力が失われていく恐れがあります。職住近接のまちづくりを進めるなど、定住人口を増加させていく取組が必要です。

対応方策

- ・各地区の地域特性を踏まえたまちづくりを行う（市民・行政）
- ・橋本駅周辺に文化ホールや劇場等、地区の目玉となる集客力がある施設を誘致する（行政）
橋本駅周辺に商業施設やオフィスなどの立地を促進し、多くの人を訪れるまちづくりを進める（市民・行政）
- ・橋本駅周辺について回遊性の向上などにぎわいのあるまちづくりを進める（市民・行政）
- ・中心市街地活性化に向けた地域の意見を集約する協議会などの設置を検討する（市民・行政）
- ・たまプラーザのまちづくりにおける東京急行電鉄(株)のような、まちづくりをリードする事業者を中心とした団体の設立を検討する（市民・行政）
移転後の相原高校や相模原協同病院(職業能力開発総合大学校相模原キャンパス跡地)などを生かしたまちづくりを行う（市民・行政）
- ・物流施設の適切な誘導を行う（行政）
- ・市民を雇用する企業を優遇するなど職住近接の取組を進め、定住人口の増加を図る（行政）
- ・前例が無いことにチャレンジする民間事業者を優先的に支援する仕組みの構築や特区制度などの有効活用を図る（行政）

2 【重点】道路・交通

現状と課題

橋本地区は、ＪＲ横浜線・相模線及び京王相模原線や国道１６号、国道１２９号・国道４１３号など鉄道と国道が結節している交通の要衝となっています。

こうした中、幹線道路の渋滞時に生活道路に自動車が入り込むことや、自転車の交通マナーが悪いことなどによる交通事故の発生が課題となっています。また、今後、高齢化が進行する中で、高齢者が安全に利用できる道路環境の整備などが求められています。

また、相原高校や相模原協同病院が職業能力開発総合大学校相模原キャンパス跡地へ移転する予定があり、このことに対応した道路や公共交通機関の整備が必要です。

加えて、ＪＲ横浜線により地区が分断されており、まちづくりの統一感がないことや、大山街道の踏切遮断時間が長いことなどによる渋滞の発生が課題となっています。

さらに、将来のリニア中央新幹線開通を契機に、橋本地区への来街者増加を図るために、電線の地中化などによりまちの美観を保つことが必要です。

対応方策

- ・シニアカーや自転車等が安全に利用できる道路整備を行う（行政）
- ・自転車の一方通行規制等を行う（行政・その他（警察））
- ・自転車専用道路の整備など歩車分離の取組を進める（行政）
- ・自転車マナー向上促進の取組を進める（市民・行政）
- ・抜け道に使用されにくい道路整備を行う（行政）
- ・相原高校や相模原協同病院の移転に対応した道路整備やバス路線網の見直しを行う（行政・その他（バス事業者））
- ・まちとしての一体感を生むために、ＪＲ横浜線の高架化や地下化を検討する（行政・その他（鉄道事業者））
- ・電線の地中化による無電柱化を推進する（行政）
- ・都市計画道路３・３・４号橋本大通り線の拡幅整備を行う（ロイヤルホームセンター北側）（行政）

3 住環境・生活環境

現状と課題

橋本地区では、ごみの分別や出す時間を守らない人が散見されたり、隣接市からのごみの持ち込みが見受けられたり、駅前の歩道などにタバコの吸殻や、ガムのかみかすなどが捨てられたりするなど、人々のモラルの低下が課題となっています。

さらに、相模原協同病院の移転により、橋本駅徒歩圏に位置する病院の数が減少することも課題となっています。

加えて、住民の利便性の面では、身近な区役所への権限移譲や各種手続きの電子化、市役所の部署同士の連携が十分に進んでいない状況があります。

対応方策

- ・外国人なども含めたごみのマナー啓発を行う（市民・行政）
- ・ごみの戸別収集などを検討する（行政）
- ・相模原市ポイ捨て禁止条例の周知徹底やタバコやガム販売事業者への協力依頼を行う（行政）
- ・ごみ収集の有料化を含めごみ減量化に向けた取組の強化を図る（市民・行政）
- ・事業者と消費者が一体となってプラスチックごみを縮減する取組を促進する（市民・行政・その他（民間事業者））
- ・駅周辺の人口増や来街者の増加を見据えて、駅徒歩圏の医療機能を整備し、緊急時にも対応可能な医療体制を整える（行政・その他（民間事業者））
- ・マイナンバーカードの更なる普及などによる市民の利便性向上に資する取組を行う（行政）
- ・区役所の権限強化を進めるなど、ワンストップで地域課題の解決ができるような仕組みを構築する（行政）

4 自然・環境

現状と課題

橋本地区は、土地利用の大半が住宅、商業・業務、工業・流通などの都市的土地利用で占められており、自然的土地利用の割合が低い地区です。また、大規模な公園・緑地が少ない状況があります。こうしたことから、市民が集まることができ、憩いを感じられる場所のさらなる創出が必要です。

加えて、相原高校跡地の開発に伴うみどりの減少が課題となっています。

対応方策

- ・人々が集まることのできる大規模な公園・緑地を整備する（行政）
- ・相原地区へ公園・緑地を整備する（行政）
- ・相原高校などの移転後においても緑地の確保を行う（行政）



5 産業・観光・商店街

現状と課題

全国的に、大規模商業施設の立地やインターネット販売の発達など流通構造の変化により、商店街における店舗の閉店などが見受けられます。今後、高齢化が進行する中で、身近な買物の場である商店街が衰退すると、いわゆる買物弱者問題が進行する恐れがあります。

また、橋本地区の一部の商店街においても、会員数減少や高齢化に伴い、街路灯の維持管理が困難になるなど、商店街の活性化が課題となっています。

さらに、相原二本松地区と橋本駅周辺地区の間には工業団地があり、駅周辺のにぎわいを波及させることが困難な状況です。

加えて、今後地区内の店舗の増加が見込まれる中、違法な営業や暴力団の不当要求が増加する恐れがあります。

対応方策

- ・新たな商店街振興策の検討を行う（市民・行政）
- ・商店街に対する必要な支援（補助金など）の拡充を図る（行政）
- ・事業承継促進など商店街の後継者対策や、対面販売による住民とのつながりなど商店街ならではの価値や強みを生かした商店街振興策を講じる（市民・行政）
- ・商店街街路灯の適切な整備、維持管理を行う（市民・行政）
- ・住民ニーズを充足させる地域密着型の商店街づくりを進める（市民・行政）
- ・市の遊休不動産や道路のデッドスペースなどを活用できるように規制を緩和し、商店街の活性化を図る（行政・その他（民間事業者））
- ・低利用の公共施設を民間で有効に管理運営し、商店街の活性化につなげる（行政・その他（民間事業者））
- ・警察の協力を得ながら暴力団などの排除を進め、質の高い店舗の出店を促進する（市民・行政・その他（警察））

6 安全・安心

現状と課題

橋本地区では、近年、急速な都市化の進展が見受けられます。

こうした中、住宅地における空き巣の発生などをはじめとした治安の悪化や、通学路の安全確保が課題となっています。

また、防犯・防災には、日常生活における隣近所との付き合い（いわゆる向こう三軒両隣の発想）や、若い世代との連携が重要です。

さらに、地区の北側を境川が流れており、地区の一部が浸水想定区域に指定されていることなどから、ハザードマップの内容を住民に対し分かりやすく周知することが必要です。

橋本地区が、今後、更に発展していくための基盤として、防犯・交通安全、防災力の強化が必要です。

対応方策

- ・防犯カメラの設置を推進する（市民・行政）
- ・通学路の安全点検を推進する（市民・行政）
- ・地域が設置した防犯カメラの管理体制の見直しを行う（警察管理とする）
（市民・その他（警察））
- ・災害時における、中学生、高校生、学校、商店街との連携体制づくりを行う
（市民・行政）
- ・豪雨時にも対応できるよう境川の治水対策を実施する（行政）
- ・ハザードマップの内容を市民に対し分かりやすく周知する（行政）
- ・地域のつながりをより深め地域の皆で行う、防犯・交通安全・防災の取組を推進する（市民・行政）

7 健康・医療・福祉

現状と課題

近年、全国的にも猛暑が続き、熱中症で多くの人々が緊急搬送されています。橋本地区においても、高齢化の進行を踏まえ、一人暮らしの高齢者などへの熱中症対策が必要です。

また、相模原協同病院の移転に対応するため、高齢者に対する医療対策の検討が必要です。

対応方策

- ・熱中症についてのきめ細かい周知、対応を図る（市民・行政）
- ・相模原協同病院の移転に対応した高齢者の医療対策の充実を検討する（行政）



8 教育・子育て

現状と課題

橋本地区では、保護者の就労環境の多様化や核家族化が進行している状況を踏まえ、子育てと仕事を両立できる環境を整備することが重要です。

こうした中、今後、橋本こどもセンターの移転や、将来のリニア中央新幹線開通などにより、地区においてさらに子どもが増える可能性もあり、こうした変化に適切に対応することが必要です。

また、子どもの貧困が社会問題となるなど、子育て世代を取り巻く環境は厳しさを増しています。橋本地区の子どもたちの健やかな成長を促すために、安心して子育てができる環境づくりに地域として取り組んでいく必要があります。

対応方策

- ・待機児童対策を適切に実施する（行政）
- ・新たな橋本こどもセンターなどの適切な計画（定員確保など）を行う（行政）

9 生涯学習・文化・スポーツ

現状と課題

橋本地区では、都市化の進展に伴う、住民の「絆」の希薄化が課題となっています。また、市を代表するイベントである七夕まつりをはじめ、こうした伝統行事、地域活動等を次世代へ継承していくことが必要です。

対応方策

- ・スポーツイベントや祭りなど人が多く集まるプログラムの充実、浸透を図る（市民・行政）
- ・伝統行事を活性化するため、後継者の育成を進める（市民・行政）
- ・家族全員での行事への参加促進、親が子をつれていく習慣づくりを進める（市民）
- ・住民参加型のイベントの推進を図る（市民・行政）

10 地域コミュニティ

現状と課題

橋本地区では、近年のインターネットの普及などをはじめとした社会の利便性の高まりを受け、近所付き合いの機会が減少するなど地域コミュニティの希薄化が課題となっています。

また、地域住民の交流などを目的とした「緑区絆づくり交流会」には、多くの市民が参加し交流していますが、同じような環境の人々が小規模で交流できる場を創出することも、地域の交流を活性化する上で必要です。

また、橋本地区には、自治会館のない自治会が存在することや、地域の集会場などとして利用されている橋本こどもセンターの移転計画があることなどから、こうした課題への対応が必要です。

対応方策

- ・地域のつながりをより深め地域の皆で行う、防犯・交通安全・防災の取組を推進する（市民・行政）（再掲）
- ・同じような環境におかれた人々が小規模で集まり、悩みを共有するなど交流できる場づくりを推進する（市民・行政）
- ・消防団への入団を呼び込む仕組みづくり、団員確保策を検討する（市民・行政）
- ・マンションの一部を自治会館として借用することを検討する（市民）
- ・橋本駅南口周辺において、無料（低額）で利用可能な集会場等を確保する（市民・行政）



会議経過

日 程	会 議 内 容	委員出席数
平成30年 5月24日	第1回 ・地域の課題（良くなった・悪くなった点）の抽出	17名
6月28日	第2回 ・課題と対応方策検討	14名
7月26日	第3回 ・課題と対応方策検討	12名
8月16日	第4回 ・報告書のとりまとめ ・重点項目の検討	14名

